

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2024年 2月 1日

事業所名:スポーツとまなびのひろばSAIYO

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	活動や遊びに応じて机やホワイトボードを壁に寄せて、広いスペースを確保、安全に過ごせるようにしている。	はい35 どちらともいえない1 いいえ0 わからない1	現状を維持していく。
	2 職員の適切な配置	常時スタッフを5~6名配置。スタッフ10名(正社員4名、非常勤6名)	はい30 どちらともいえない2 いいえ0 わからない5	常時スタッフを5~6名配置できるようにし、適切な職員の配置を維持していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	物の場所がわかるよう、ラベルや写真で掲示している。	はい30 どちらともいえない1 いいえ0 わからない6	子ども達が使いやすいよう、その都度整理整頓を心掛けていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	常時換気を行い、終了後に清掃を実施。	はい36 どちらともいえない0 いいえ0 わからない1	今後も清掃、換気等を行い、清潔な環境を提供していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	月1回社内会議にて業務計画の確認や進捗を報告。会議後や勉強会時に法人内の他校との意見交換や検討事項の決定を行っている。		現状を維持していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部評価の実施はなし		必要があれば検討する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	月1回の勉強会を実施。社外の研修会の案内を周知している。療育に関する講習会にも担当スタッフを中心に参加した。		研修にはどんどん参加するようにしていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメントやサービス利用計画をもとに保護者とニーズの確認を行う。	はい36 どちらともいえない0 いいえ0 わからない1	現状を維持していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	活動は、集団活動が主となる。個別活動(学習)は、希望に応じて対応している。		現状を維持していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	設定した目標に対し、誰が読んでも何をするのかかわかる記載を心がけている。	はい36 どちらともいえない0 いいえ0 わからない1	現状を維持していく。
4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	ミーティングや送迎後などで保護者からの情報、支援方法などスタッフ間で情報共有している。	はい34 どちらともいえない1 いいえ0 わからない2	スタッフ間の情報共有を継続する。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	5 チーム全体での活動プログラムの立案	法人内の他校のスタッフと毎週療育ミーティングを行い、常時子ども達を楽しめる内容を検討。検討した結果をスタッフに周知し、実施している。	はい32 どちらともいえない3 いいえ1 わからない1	現状を維持していく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	家庭状況に応じて、相談があった時は随時対応している。また、学習についてのご家族、ご利用者からの要望にも対応している。		ご家族、ご利用者からの相談にできることであれば対応していく。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	集団で療育を行っていること、毎回やることで成果が見られること(目の体操や動物体操)は、欠かさず行っている。それ以外は週替わりで内容を検討している。土曜日、祝日のイベントは、中学生の意見を取り入れた。夏休みは、療育だけでなく、ミニゲームを行った。		固定して行うプログラム、週替わりのプログラムそれぞれの内容を通信やSNSを使って発信していく。また、ご利用者の意見も取り入れていく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	療育ミーティングで決定した内容を担当スタッフが中心となり、事業所内で検討し、他スタッフと支援内容や役割分担を決定。		現状を維持していく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	その日のできごとをスタッフ間で終了後に話し合い、場合によっては連絡ツールを使用して情報を共有。		現状を維持していく。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	スタッフ間で分担して記録。個人のファイルに閉じて保管している。		現状を維持していく。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回モニタリング、計画の見直しを行っている。		現状を維持していく。
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	児童発達支援管理責任者が参加。状況に応じて心理士が出席することもある。		現状を維持していく。
2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	利用している子がいない		必要となった場合、検討していく。
3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	利用している子がいない		必要となった場合、検討していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	依頼がないので実施したことはない。		依頼があれば対応していく。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	保護者からの依頼があった時は、事業所での様子、意見を文書で提供。		依頼があれば対応していく。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	支援学校や市内の事業所連絡会に参加。研修は、スタッフに周知し、参加している。		今後も専門機関との連携を行い、研修受講の機会を設けていく。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	交流は行っていない。土曜日のイベントで公園に行き、地域の人とかかわることもある。法人内の他事業所とは、施設内研修としてスタッフ間での交流を行っている。	はい6 どちらともいえない3 いいえ8 わからない20 ・子供同士の交流もあれば喜びそうだし、1Fのデイ利用の方との交流もあれば勉強になると思う。	平日の交流は難しいが、土曜日のイベントで公園に出かけた際には交流が持てるよう、スタッフが配慮する。また、施設内の他事業所とも交流の機会を検討する。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域住民を招待するような行事は実施していない。		夏休みに法人内で鴻池校、就労と一緒に夏祭りを行ったが、今後は地域住民を招待することも検討。
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に説明を行っている。また、負担上限月額に変更があった場合、個別で説明を行っている。	はい35 どちらともいえない2 いいえ0 わからない0	丁寧に説明を行っていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談時に説明をしている。	はい37 どちらともいえない0 いいえ0 わからない0	現状を維持していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	実施を検討した時期があったが、実施予定はない。	はい23 どちらともいえない5 いいえ2 わからない7	面談時に子どもの話の聴き方、声の掛け方などの支援の仕方をレクチャーし、保護者への支援を行っていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時や連絡帳などで利用時の様子を伝えている。場合によっては、LINEや電話連絡することもある。	はい35 どちらともいえない2 いいえ0 わからない0	現状を維持していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応に必要な助言の実施	面談を契機に継続が必要、希望がある保護者には心理職との面談を行っている。また、送迎時、電話などでも対応している。	はい36 どちらともいえない0 いいえ0 わからない1	現状を維持していく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会はない。夏休みに夏祭りを実施し、ご利用者の様子をご家族が見ることができる機会をもった。	はい6 どちらともいえない7 いいえ7 わからない17	夏祭りや保護者参観の企画を行い、保護者同士が交流できる機会を検討する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
1次	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	スタッフに周知し、即座に対応している。	はい25 どちらともいえない3 いいえ1 わからない7 未回答1 ・苦情を聞いたり、出したりしたことないからわかりませんが、問題あったらちゃんと対応してくれます	苦情があった時は即座に対応するようにする。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	電話、LINEを使って対応。写真やイラスト、筆談を使用し、利用者に応じた対応をしている。	はい32 どちらともいえない2 いいえ0 わからない2 未回答1	今後も継続していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	まなびっ子通信を不定期で発行。前月に翌月の予定を案内している。	はい33 どちらともいえない3 いいえ0 わからない1	イベント予定は継続して発行、まなびっ子通信は毎月発行、内容を検討する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	契約時に個人情報使用同意書を保護者と取り交わしている。写真についてもSNSに載せる場合は、個人が特定できないようにしている。	はい32 どちらともいえない2 いいえ0 わからない3	現状を維持していく。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	まなびっ子通信で災害時、LINEの全体配信で学級閉鎖時の対応をお知らせした。	はい26 どちらともいえない2 いいえ2 わからない7 ・防犯マニュアルは知りたい。(不審者侵入などの時の対応)	マニュアルを周知できるよう、まなびっ子通信やLINEの一斉送信を利用していく。また、防犯も含めて細かなところも検討し、検討結果を発信していく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練を夏休み、春休みの1週間を予定して行っている。	はい29 どちらともいえない3 いいえ0 わからない5	避難訓練を継続して実施。翌月の利用予定表やイベント案内で周知する。また、実施したことを連絡帳でも記載する。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	外部の研修にスタッフが参加、虐待防止マニュアルを作成し、事業所内の月1回の勉強会でも学ぶ機会を確保している。		虐待防止委員会の開催、研修を継続して実施する。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	月1回の勉強会の中で身体拘束についても行い、事業所としての対応、決定を周知。		今後も身体拘束をしない。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	医師からの指示書の提出を保護者にお願いしていないが、契約時や子どもの状況が変わるたびに保護者からの聞き取りや連絡でやりとりをしている。		現状を維持していく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	その都度、記録しファイリングしている。日々のミーティングの中でスタッフに周知、共有している。		現状を維持していく。